

24年度の応募は119件

日本板硝子材料工学助成会

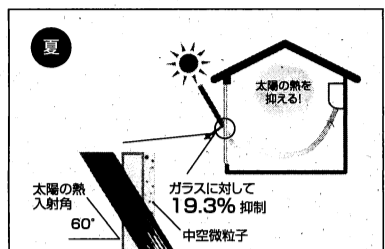
太陽光コントロール

ジェイトップライン

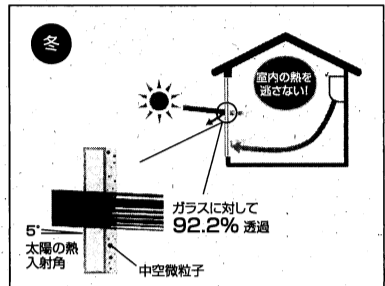
日射取得型遮熱フィルム

ジェイトップライン

(東京都文京区、清水康二社長)は、透明中空微粒子フィルム「Air」を販売している。空気を閉じ込めた無数の中空微粒子が空気層を形成し、日射角度が高い夏の日差



夏は日射を遮る(冬は取り入れる)



しを遮り、日射角度が低い冬の日差しを室内に取り込む。季節によって太陽光をコントロールすることで、年間を通して省エネ効果を発揮する。同社は2018年から「Air」の開発を進め、2022年末に製品化。開発に当たっては、公益財団法人東京都中小企業振興公社の新製品・新技術開発助成事業に採択され、助成金の支援を受けた。さらに販売に当たっては、同社の中小企業ユーマーケット開拓支援事業に採択され、販路開拓の支援を今年から2年間受けている。清水社長

は「Air」は設計段階でSDGsの要素を取り入れており、今後、ガラスのスマート化を図るリニューアブルのマーケットや脱炭素を目的とする建物に対して、省エネと建物強靱(きょうじん)の効果を合わせて提案していくと語る。

「Air」の可視光線透過率は85%と高透明。反射タイプのフィルムなので冬季の日射吸収が低く、ガラスの熱割れリスクを極限まで抑え込んだ。熱割れリスクが少ないため、既存のLow-E

「E」の開発は、2022年末に製品化。開発に当たっては、公益財団法人東京都中小企業振興公社の新製品・新技術開発助成事業に採択され、助成金の支援を受けた。さらに販売に当たっては、同社の中小企業ユーマーケット開拓支援事業に採択され、販路開拓の支援を今年から2年間受けている。清水社長

「E」の開発は、2022年末に製品化。開発に当たっては、公益財団法人東京都中小企業振興公社の新製品・新技術開発助成事業に採択され、助成金の支援を受けた。さらに販売に当たっては、同社の中小企業ユーマーケット開拓支援事業に採択され、販路開拓の支援を今年から2年間受けている。清水社長

新見ソーラーカンパニー(岡山県新見市、佐久本秀行社長)はこのほど、太陽光パネルのリサイクル装置「佐久本式ソーラーパネル熱分解装置」が完成。佐久本式ソーラーパネル熱分解装置は、2020年に完成したプロトタイプからさらに進化し、マテリアルに分別した状態で取り出すことができる。同社は2030年代から本格化する太陽光パネルの大量廃棄に対応するため、研究開発を行っている。開発した熱分解装置は燃焼による二酸化炭素を発生せず、高温の水蒸

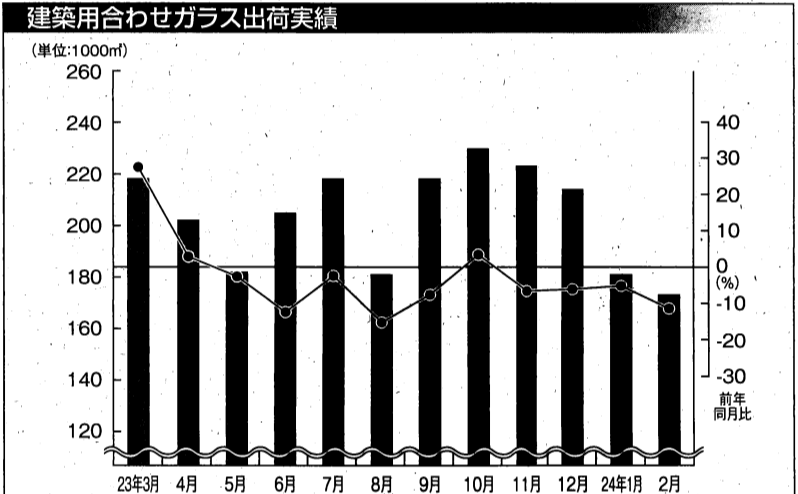
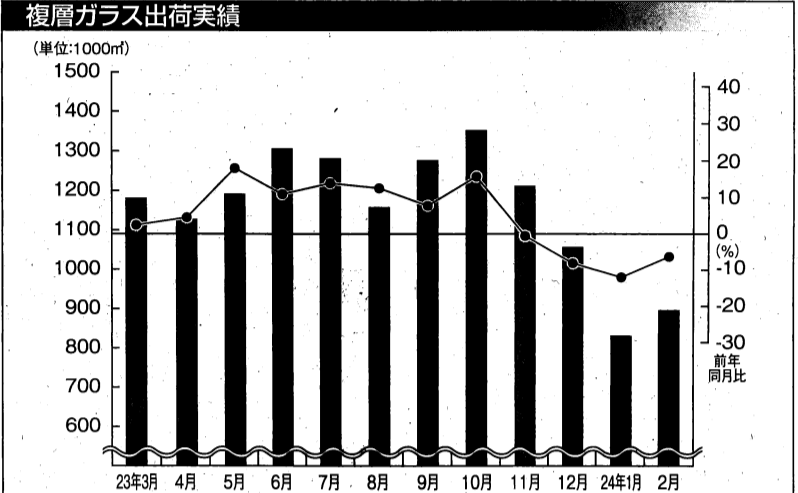
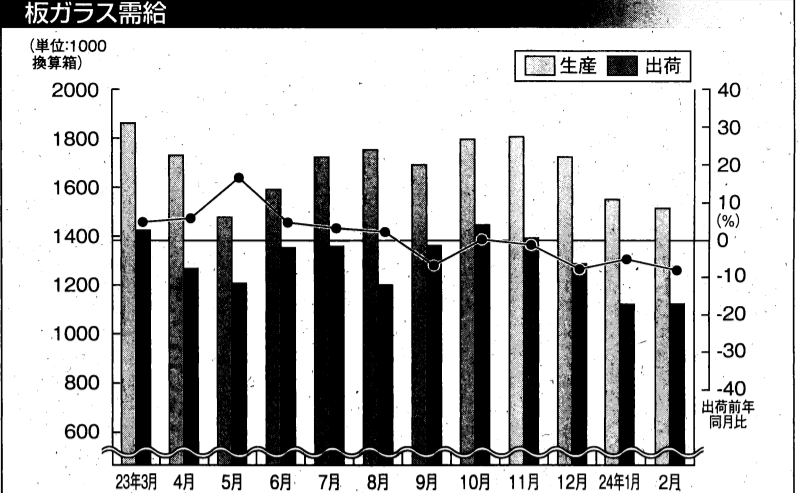
市も決定したと発表された。「佐久本式ソーラーパネル熱分解装置」は、2020年に完成したプロトタイプからさらに進化し、マテリアルに分別した状態で取り出すことができる。同社は2030年代から本格化する太陽光パネルの大量廃棄に対応するため、研究開発を行っている。開発した熱分解装置は燃焼による二酸化炭素を発生せず、高温の水蒸

「E」の開発は、2022年末に製品化。開発に当たっては、公益財団法人東京都中小企業振興公社の新製品・新技術開発助成事業に採択され、助成金の支援を受けた。さらに販売に当たっては、同社の中小企業ユーマーケット開拓支援事業に採択され、販路開拓の支援を今年から2年間受けている。清水社長

「E」の開発は、2022年末に製品化。開発に当たっては、公益財団法人東京都中小企業振興公社の新製品・新技術開発助成事業に採択され、助成金の支援を受けた。さらに販売に当たっては、同社の中小企業ユーマーケット開拓支援事業に採択され、販路開拓の支援を今年から2年間受けている。清水社長

「E」の開発は、2022年末に製品化。開発に当たっては、公益財団法人東京都中小企業振興公社の新製品・新技術開発助成事業に採択され、助成金の支援を受けた。さらに販売に当たっては、同社の中小企業ユーマーケット開拓支援事業に採択され、販路開拓の支援を今年から2年間受けている。清水社長

「E」の開発は、2022年末に製品化。開発に当たっては、公益財団法人東京都中小企業振興公社の新製品・新技術開発助成事業に採択され、助成金の支援を受けた。さらに販売に当たっては、同社の中小企業ユーマーケット開拓支援事業に採択され、販路開拓の支援を今年から2年間受けている。清水社長



板ガラス2月

出荷減4カ月連続

建築合わせも4カ月連続減

一般社団法人板硝子協会(島村琢哉会長)は5月1日、2024年2月の板ガラス生産・出荷動向を発表。板ガラスの生産は5カ月連続増加、出荷は4カ月連続で減少した。複層ガラスは生産は3カ月連続、出荷は4カ月連続減。合わせガラスの生産と出荷は2カ月連続で減少。出荷のうち建築用は4カ月連続での減少となった。強化ガラスの生産は13カ月ぶりに減少。出荷は2カ月連続での減少となった。

強化ガラスの生産は191万5000平方メートル、同7.2%減だった。出荷は177万平方メートル、同11.2%減だった。合わせガラスの生産は130万平方メートル、同3.4%減。出荷は126万5000平方メートル、同10.1%減。出荷のうち建築用は17万3000平方メートル、同11.2%減だった。

優秀サプライヤー賞 AGC 米インテル社から受賞

AGC(平井良典社長)はこのほど、米インテル社から2024年度「EPIIC優秀サプライヤー賞」を受賞。卓越性、パートナーシップ、インクルージョン、継続的な品質改善への取り組みが、インテル社の要求水準を上回るパフォーマンスだったことが評価された。

同賞は、インテル社のサプライチェーンの中で、EPIICサプライヤープログラムに評価され、80%以上のスコアを達成することが求められる。自社で策定した改善計画に対して80%以上のスコアを達成し、卓越した品質とビジネス体制を提供することが求められる。

「EPIIC優秀サプライヤー賞」を受賞。卓越性、パートナーシップ、インクルージョン、継続的な品質改善への取り組みが、インテル社の要求水準を上回るパフォーマンスだったことが評価された。

同賞は、インテル社のサプライチェーンの中で、EPIICサプライヤープログラムに評価され、80%以上のスコアを達成することが求められる。自社で策定した改善計画に対して80%以上のスコアを達成し、卓越した品質とビジネス体制を提供することが求められる。



取得が40%以上という結果が得られた。遮熱効果が高いフィルムほど冬反射するため、日射取得が悪くなる。「Air」は季節によって日射をコントロールできるので、冬の日射取得に優れる。断熱性能を高める粒によって、結露は発生するが、水滴の粒が小さいため垂れ落ちる前に蒸発するので、何も貼っていないガラスと比べて結露量を10分の1以下抑えることができる。露によるカビなどのリスクを小さくし、窓の周りの床や窓枠の傷みを防ぐ。

Advertisement for Fuji Safety Glass, featuring safety glass for cars, industry, and trains. Includes contact information for Fuji Safety Glass Co., Ltd.

Advertisement for reinforced glass doors, featuring various frame types and special doors. Includes contact information for the manufacturer and retailer.